



今月のメダマ

「ニコメ」と「まわり」の化学反応②

「しごと——いあきた」×働くお父さん

子ども達の未来の可能性を広げるアプローチ



左から、キクチさん、カズさん、スミスさん。全員が子育て真っ最中のパパ! 偶然にも全員が比内地区出身という共通点が見つかり、地元トークでも盛り上がっていました!

県内各地で行われているちょっと気になる活動や人を参考に、大館市大町のニコメに集う人びとが「自分がこのまちでやってみたいこと」について自由に話してみる連載企画! 第2回目は、2015年から県内各地で行われている小学生向けキャリア教育プログラム「しごと——いあきた」実行委員会代表の須田さんのお話をもとに、大館市在住のお父さん達が話し合いました。参加者は、生きづらさを抱える人達の居場所づくりに取り組む「ココスグ」代表キクチさん、アウトドアと観光を軸に活動しているカズさん、中学2年生の娘をもつスミスさん。3人が考える「子ども達の未来の可能性を広げる方法」とは?

1 『義務教育と補完関係にあるプログラム』
学校とは違う視点で将来を探す

キクチ 学校の授業で将来の夢を扱う時って、とりあえず具体的な職業名を書かせがちですが、それだけじゃなく「何がしたいか」や「どう生きたいか」から将来を考える時間も必要ですよ。単純に「やりたいと思ったから、やる」という経験を継続していくことって大事だと思うんです。例えば、僕は今、副業でウェブライターの仕事をしています。そういう「どこかに所属して働く」以外の選択肢もあるということをもっと若い世代や子供たちに伝えていければ、会社勤めが合わないという人たちの生きづらさも減るんじゃないかな。

スミス 今はネットのおかげで田舎にいても情報を得ることができるので、子供たちにももっと伝えていけたらいいですね。

カズ 学校の先生からだけでなく、様々な視点の人から直接伝える授業のような場がもっと欲しいですね。



3 『「答え」を見つけるよりも「問い」を持つことを重視』
発想の転換で、身近なモノから何かを見つける

カズ 観光事業に関わるようになってから、違う土地から来た人が大館の自然を楽しんでいる姿を見たり、「大館には武器になるものがたくさんあるよね」と言われたりしたおかげで、初めて「大館って、実は客観的に見ても素敵な所なんだ」と気付くことができました。だから、子ども達にも同じ体験をしてもらえたらいいと思います。外からきっかけを得て発想の転換につながったり、「どんなことをして楽しめる?」という問いを見つけられたら、色々な面でプラスになるかなと。

スミス 外の人の視点を借りて価値を見つけるっていいですね。内側からじゃなかなか気付けないので。

2 『学校というくくりを越えた経験が大事』
多様な仲間と出合える場所

スミス 部活って種類が限られてるけど、興味を持つものみんなもっとバラバラですよ。僕は以前インターネットで知り合った人たちと「アルティメットフリスビー」のサークル活動をしていて、それがすごく楽しかったんです。そんな風に、多様な仲間に出合えるサークルの起点のような場所が身近にあればいいなと思います。仲間がいるとモチベーションが上がるし、教え合えばどんどん上達するので。

キクチ 好きなことは一生懸命やれるから、スキルが上がりやすいんですね。だから趣味を仕事にすることって、実はとても現実的だと思う。

カズ 勉強に限らず、子どもたちの個性が見えた時に、それを最大限伸ばせる環境があるといいですね。田舎にいても一流に触れられるような。

キクチ 自分の「好き」の気持ちに素直に過ごせる場所があったらいい。そこにいる大人もいろんな生き方をしている、多様な生き方を肯定的に見せることができればいいですね。

ニコメ/メ
Twitter
アカウント



@nikomenome

今回のゲスト

しごと——いあきた 実行委員会代表
須田 紘彬さん



会場を一つの「子どもだけの町」に見立て、子どもたち自身が好きな仕事を選んで働き、稼いだお金で好きなものを買い、納税して町を

発展させるという、模擬的な社会体験ができるイベント「しごと——い」。働く楽しさ・難しさをリアルに体感してもらうことが目的です。

発起人の須田さんは、「子どもの職業観は、親や身近な大人の意見で決まってしまうがち。でも、仕事はもっと自由に楽しいものだから、人生を自由に選んでほしい。また、時代とともに変化する職種に<対応する力・学び続ける力>を身に付けてほしい」と話します。

北鹿地区では、派生団体が主催する「しごと——いかづの」が年に1回、鹿角市で開催されています。

ニコメの芽



「まんま処 なごみ家」

MARUWWAニコメのレンタルキッチンを使って不定期に出店するごはん屋さんです。「横手焼きそば」をはじめ、麺とこんにやくを半々にしたヘルシーな「ハーフこんにやくパスタ」、野菜をたっぷり使ったおかずなど、横手市出身のシェフが体に優しいメニューを提供します。木曜日のお昼、市役所本庁舎のお出かけ商店街にも出店中。毎回替わるメニューもお楽しみ!

いしころキラリ

十ノ瀬藤の郷
ファンラン Report

ファンランとは、楽しむことを目的に走るランニングです。速さや順位を競うのではなく、美しい景色や自然を体で感じたり、交流したり、走ることと何かを組み合わせる体験するのが醍醐味です。

5月17日と21日、地元のランニングクラブが主管となり、大館市やその近隣のファンランの周知やランナーを増やすことを目的に「十ノ瀬藤の郷ファンラン」が開催されました。開園前の十ノ瀬藤の郷をゆったりと観賞し、スタート&ゴール地点のたしろ温泉ユップラで疲れを癒すことができるイベントでした。初心者からマラソン大会での受賞歴を持つ人までが一緒に走り、歓談もできるジョギングペースで、早朝の新鮮な空気の中、普段味わうことのできない体験に参加者も満喫できた様子でした。

今年はテストイベントとしての人数と参加料で行われましたが、来年以降は規模を拡げてさまざまな体験や特典を企画しています。そのため来年の開催に向けてランナー仲間を増やしていき、ランニング練習の機会や交流機会を予定しています。走りながら大館を楽しむファンランに、今後も注目です!



instagram
@theodaterc

十ノ瀬藤の郷ファンラン

主催

主管

いしころ
ishicoro,LLC

THE ODATE
Running Club